

〔明和〕京羽二重^三茶柄杓師

室町今出川下ル町 黒田正玄 東洞院丸太町下ル町 柄杓師總言

〔雍州府志^七〕竹屋 近世二條京極所々并四條京極東以竹造諸品物第一倣茶人之舊製而以大

竹切插花之筒^略○中 或柄杓悉製之○中 柄杓汲湯之具也竹筒存節二寸許切之橫貫竹柄以之杓湯

并水

杓立

〔茶具備討集〕杓立^{シヤクタテ}

鑿口 柑子口角而雉尾或波紋有之 雲耳 管耳 糸底無 沙糖壺裏 小瓶

〔茶道筌蹄^四〕杓立之部 古名ロシヤク立

唐物金類

青磁^略○圖 礎の手の本哥なり此杓立に似たる青磁を礎といふ衣を搗つ槌に似たるゆ

へなり 金襴手 瓶子に限る瓶子とは手口の付たるをいふなり千家には用ゆる事

不好なり 交趾^{形定まらず} 染付^同 祥瑞^同

同和物之部金類

四葉桃底 小は原叟好大は如心齋好^{大壺子に用ゆ}

瀬戸 黃瀬戸 唐津 樂燒 皆々寫し物也

〔茶道早合點^下〕蓋置^{ふた置き} 釜の蓋柄杓をのせ置道具なり

〔和漢三才圖會^{三十一}〕蓋置^{ふた置き}

蓋居^{フタオキ}乎^布太^岐用竹節際作之其徑高共一寸

〔雍州府志^七〕竹屋 近世二條京極所々并四條京極東以竹造諸品物^略○中 倭俗圓竹徑二寸許長

二寸餘存節切之置爐邊安釜蓋於竹頭是謂引切言以鋸引切之謂也或稱竹輪又謂蓋置

蓋置